

AJIBI News

vol.
98

あじびニュース



あじびから
新たな創作の場を
つくり出す



福岡アジア美術館
Fukuoka Asian Art Museum

Artist in Residence

知るともっと楽しくなる！
レジデンスの舞台裏

第1期作家のホンネ座談会

日本のイメージを変えた出会い

あじび学芸員（以下 あ） レジデンスはどうでしたか？

フォティック（以下 フ） 三人と一緒に展示ができて刺激的でした。メディアの扱い方やインスタレーションの仕方など、自分とは異なる制作のプロセスを間近に見ることができ、今後の創作に活かせる学びが得られたと思います。

馬場（以下 馬） 私は自分の個人史を辿るのが展示のテーマだったので、あまりいい思い出のない場所にも足を運んだんです。でも、思っていたより全然大丈夫で。景色は昔のままだも、自分が変わったんだということに気づけてよかったです。

ウィリー（以下 ウ） 僕はフォティックと同じ便で日本に来たのですが、着いてすぐに馬場さんがノンストップで話しかけてくれたのが印象に残っています。彼女は一つの質問に10のトピックスを返してくれるほどおしゃべりなんです（笑）。

フ 僕は日本人に対して、礼儀正しくて本音を話さないイメージを持っていました。でも彼女は違った。日本のネガティブな課題についても率直に意見を語ってくれたので、リアルな日本を知ることができました。

馬 現代アートに携わる者同士だからこそ、素直に話せた気がします。ホストクラブとかラッピングカーの説明とか、くだらないことまでたくさん話したよね（笑）。二人ともお酒を飲まないんですけど、ずっと飲み会のようなテンションでしゃべっていました。

ウ 滞在中の生活のこともいつも気にかけてくれました。馬場さんは日本のお母さんです。

成果展を終えた3人が、 滞在で得た気づきや 制作にまつわる エピソードを語ります。

Artist's Comment

まだ国内作家の招へいがなかった10年前から「レジデンスに選ばれたい!」とずっと言い続けてきました。念願叶って参加でき、感無量です！

馬場さおり
Baba Soori

Artist's Comment

作品のモーターが動かなくて本当に焦りました…。でも「これだけ一生懸命やってもうまくいかないことはある」と捉ええると、逆に意味が出てきました。

ウィリー・サイウッド
Willie Xaiwoth

Artist's Comment

プリントや額装など、慣れない作業に戸惑いましたが、シム・ウヒョン先生やコーディネーターたちがたくさんアドバイスしてくれました。

モハメド・フォズレ・ラッビ・フォティック
Md. Fozia Rabbi Fotiq

トラブルが作品の 新たなコンセプトに

あ 制作過程で大変だったことは？

ウ 時間の制約が辛かったです。自分の技術の足りなさを痛感しました。フォティックは？

フ 全部（笑）。自分で展示をオーガナイズするというやり方だったので緊張しました。機材の準備からライティング、プリント、額装まで自分で準備するのも初めての経験でしたね。

馬 しかもバングラデシュで使っているのと全く同じ機材を使いたかったんだよね？

フ そうなんです。でも探しても見つからなくて。そうしたら九州産業大学造形短期大学のシム・ウヒョン先生がたまたま同じものを持っていて、貸してもらえました。本当にありがたかったです。

馬 「作家に委ねる」というスタイルは、あじびならではですよ。同時に、コーディネーターチームや学芸員のサポートが手厚い点もあじびの特徴だと思います。

あ 馬場さんは何が大変でしたか？

馬 ライティングです。構造体がぼわっと浮かんているような表現がしくて、端の一方からライトを当てるつもりでしたが、どうしてもうまくいかなかった。でも試行錯誤して上から当ててみたら、下に反射した揺らぎが出て、イメージに近いものができあがったんです。

ウ 僕も似たようなことがあって、初日から作品内部のモーターの回転が悪く、最後まで動きませんでした。でも結果的には動かない箇所があることで、作品に奥行きが生まれました。このトラブルによって、失敗も物語に変えることができたと学びました。

馬 私とフォティックは写真だから静止しているけど、ウィリーは作品の内部を動かさなきゃいけないから余計に大変だったはず。正直、三人の中でウィリーが一番働いていた気がします（笑）。

地元作家の存在が まちとのつながりを深める

あ フォティックとウィリーは、日本に対してどんな印象を持ちましたか？

フ 日本だと必要なものはすぐにオンラインで注文できますが、バングラデシュには地元の小さな市場しかありません。「制約の中でどうつくるか」を常に考えてきたので、選択肢が豊富にある状況での創作は新鮮でした。それぞれによさがあると感じましたね。

ウ ラオスで生まれ育った僕にとって、竹は身近な存在。その竹が日本の文化の中でどう受け止められてきたかを探るのは、とても興味深い作業でした。しかもレジデンスにラオスの作家が選ばれたのは22年ぶりだそうで、今回の滞在は特に思い入れの深いものでした。

馬 慣れない環境の中、二人とも福岡のいろんな場所に行って、地域の人と話して、アイデアを固めていきました。素晴らしいプロセスですよ。福岡出身の私としても、このまちに興味を持ってくれたことが嬉しかったです。

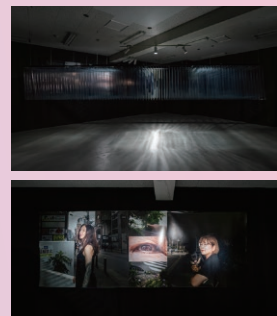
あ 馬場さんのような地元の作家が参加してくださったことで、まちとのつながりもより深まったと思います。これからも多くの出会いとアートの輪が広がっていくことを願っています。

ance

新たな創作の 場をつくるひと

あじびの「アーティスト・イン・レジデンス」事業は、コーディネーターたちの存在によって支えられています。2025年度の滞在制作をがっちりサポートしている3人の精鋭と、レジデンスの流れをご紹介します。

今年3月まで台湾にいた渡辺薫さんは、台湾語、日本語、英語を駆使しながら、作家たちの制作・生活面をサポート。チームリーダーとしてみんなをまとめてくれています。2人目は、杉原桃子さん。気さくな声掛けでアーティストやスタッフの笑顔を引き出しつつ、日々の活動をSNSで紹介。3人目は、昨年に続きコーディネーターを務めてくれる牧園恵二さんで、主に制作の技術面をサポート。作家の希望を聞きながら、具体的な展示方法を一緒に考えてくれています。



透過フィルムに写真を印刷し、光を当てることで像を浮かび上がらせるインスタレーションに挑戦した馬場さん。初めての試みでありながら、周囲への気配りを欠かさず、いつも温かな雰囲気をつくってくださいました。元気な笑顔で差し入れのお菓子を持ってスタジオに入ってくる姿が印象的でした。アーティスト同士はもちろん、アーティストとスタッフの交流も活発になり、スタジオ全体がぱっと明るくなりました。まるで私たちのいとなみを照らし出してくださるようでした。楽しく、忘れがたい時間をありがとうございました。

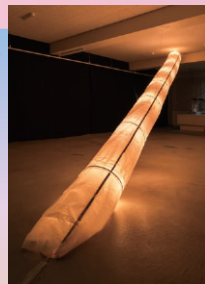
馬場さおり「写真廻路プロジェクト_記憶の巡環 2025」
《写真廻路プロジェクト_記憶の巡環 2025_on the way》撮影：川崎一徳

竹と和紙のインスタレーションに初挑戦したウィリー。故郷で育まれた自然への深い知識や研ぎ澄まされた感性を持ちながら、制作スタジオからは歌声が聞こえてきたり、何か発見があるとキュートな高い声ととびきりの笑顔で伝えてくれる姿が忘れられません！道の駅が大好きで福岡の野菜や果物を楽しんでいました。常に自然体で素直な姿に、心が洗われました。

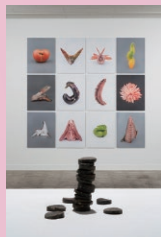


コーディネーター 渡辺さん

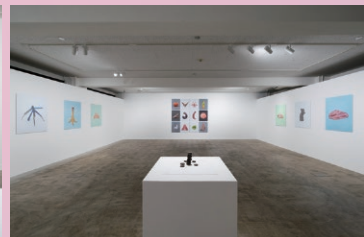
ウィリー・サイウッド
《動き出す遺産》
撮影：川崎一徳



作品の制作現場をサポートして



毎朝はじける笑顔でレジデンスにやってくるフォティックに、みんなが元気をもらっていた日々でした。作品制作に対してはとても冷静で計画的。リサーチと制作のタイミングをしっかりと見極め、自分のペースを大切にしていました。オンとオフの切り替えも上手で「日本人は働きすぎ！」と帰る時にいつも言っていたのが印象的です(笑)。フォティックがお昼ご飯に毎日持参していた手づくりカレーの味を確かめられなかったのが、今も心残りです…。



モハメド・フォズレ・ラッビ・フォティック
《オボチヒンノ(痕跡なし)/痕跡》
撮影：川崎一徳



コーディネーター 杉原さん



昨年より始まった「交換レジデンス」。

2024年度は韓国の光州市立美術館と連携しました。

今年度は台湾の高雄にあるPier-2アートセンターと連携し、都市をこえたアーティストの交流に取り組みます。

2024年度
振り返り

光州 → 福岡

「福岡アジア美術館」 滞在期間：2025.1.20 - 3.20



《また会えますように》

comment by Kwon Ryeowon

福岡では街の写真にオブジェ(自然物)を重ねた作品を発表しました。福岡滞在中は、本当に寒い冬でした。当時撮影した写真を見返すと、その時の寒さが鼻の先に蘇り、日々変化する街並みを毎日歩いたことを思い出します。美術館近くの食堂で食べた、おかずが盛りだくさんの定食ランチも印象的でした。あじびの皆さんがサプライズで準備してくれた誕生日会と学生とのワークショップは、誕生日にいただいた特別な贈り物でした。

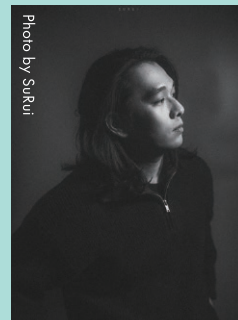


Photo by Surui

高雄 → 福岡

チェン・イエンチー 陳彦齊

Chen Yen-Chi 1998年台湾・台南生まれ、新竹在住

「福岡アジア美術館」 滞在期間：2025.9.30 - 11.22

近年は、音がいかに人間の行動を制御するかに注目し、音の政治性についてユーモアを交えて表現してきました。福岡では、街中で聞こえる音やメロディ、あるいは昔流行した歌謡曲などをヒントに作品を構想しています。完成した作品は、3月に開催するレジデンスの成果展にて発表予定です。

成果展

数か月に及んだレジデンス活動の成果発表。展示作品を前にしてのギャラリートークやパフォーマンスを開催するなど、完成した作品の世界を堪能します。

交換レジデンス事業とは？

2024年度よりアジアにある美術館などと連携し、「交換レジデンス」を行っています。このレジデンスでは、現地の作家を福岡に招へいし、代わりに当館のレジデンスに参加した福岡の作家を送り出します。

交換レジデンス

福岡 → 光州

「光州市立美術館」 滞在期間：2025.2.3 - 3.30



《「川を越える橋を越える川」のためのドローイング》

comment by Koga Yoshihiro

滞在中、かつて日本が朝鮮半島を植民地としていた頃に、陸軍主導により建設された橋にまつわる作品を構想しました。これらの橋は外国の力により強制的に建設されたものですが、その後は市民のインフラとして使用され、また南北戦争の時には激戦のポイントにもなり、敵軍からの侵攻を喰い止めた「護国の象徴」とさえなりました。さまざまな歴史的分脈の折り重なる橋は、あらゆる境界を越えるメタファーとして機能するのだと理解し、橋というものにとっても興味を惹かれました。光州、群山、大邱3ヶ所の橋を調査し「川を越える橋を越える川」と題して、オープンスタジオ形式で作品を公開しました。年月を経て風化する橋はそのまま記憶の忘却へと繋がり、時間を越えるものとして機能する作品を残したいと感じました。

古賀義浩

1986年生まれ、久留米市在住。2023年に当館レジデンスに参加

1年目の振り返りとこれから

2025年度
INFORMATION

福岡 → 高雄

長野櫻子

Nagano Sakurako
1989年生まれ、福岡県糟屋郡在住。
2023年に当館レジデンスに参加



「Pier-2 アートセンター」
滞在期間：2026.2 - 4月予定

あじびのレジデンスに参加し、パンデミックの影響で社会から孤立した人々たちをドキュメンタリー・アニメーションに描きました。現在もインタビューや現地調査を通して、記憶や風景、日常の生活にまつわる感覚を表現しています。台湾では、タイヤル族などの先住民族も含めた、海や山の暮らしや歴史、神話などについてリサーチする予定です。

知っておきたいレジデンスのプロセス

2期3期の前にCheck!

事前ミーティング

来福前に、まずはオンラインミーティング。作家も、あじび学芸員もどきどきの初対面。長期滞在するにあたり、生活面や制作環境などを説明します。

ブレスト & 定期ミーティング

新たなひらめきや課題・問題を具体的に共有し、どんな支援ができるか話し合います。ここで予算やスケジュールの確認も(滞在開始後・週1回程度実施)。

リサーチ & 滞在制作

作品プランや新たな情報をもとに福岡内外をリサーチ。みんなのネットワークをフル活用して、どんな物でも、人でも探します。

交流イベント

トークやワークショップや共同制作などを通し、作家たちのアイデアをさまざまな人と共有。制作プロセスを開くことで、新しい刺激を作品制作に取り込みます。

展示作業

成果展に向けていよいよ大詰め！作品のアイデアや滞在中に経験したことが作品になる瞬間。展示空間に合わせて最終調整を行います。

成果展

数か月に及んだレジデンス活動の成果発表。展示作品を前にしてのギャラリートークやパフォーマンスを開催するなど、完成した作品の世界を堪能します。

あじび休館中でも
インターネットで
気軽にアジア・アートを探訪！

推薦者：黒田雷児(学術交流専門員)

あじびは12月から
来年3月末まで改修工事で休館します。
その間あじびの展覧会を見ることができず
さびしいと思われる方に、オンラインで
アジア美術を学ぶ・楽しむ方法を
伝授いたしましょう！

総合ウェブサイト(日本語)

必見は世界唯一の
アジア近現代美術年表！

アジア美術資料室 **A**

アジア美術の基本知識を学ぶ教科書は日本にはありません。そこで、アジア美術特有の用語や、今日の国際化するまでの歴史的展開、異なる地域間の連動・交流・違いなどを、いつでも調べられるように、あじびではこのウェブサイトを2023年に開設しました。現時点では、年代順総覧も検索もできる「年表」約1400件と日本語メインの「文献」約1600件のデータベース、「用語集」45件、詳細な解説を含む「重要作家」22件を掲載、今年度は地域別の概要を追加予定で、各項目の内容も徐々に充実させています。

多数の重要文献が日本語で読める！

国際交流基金アジア美術アーカイブ **B**

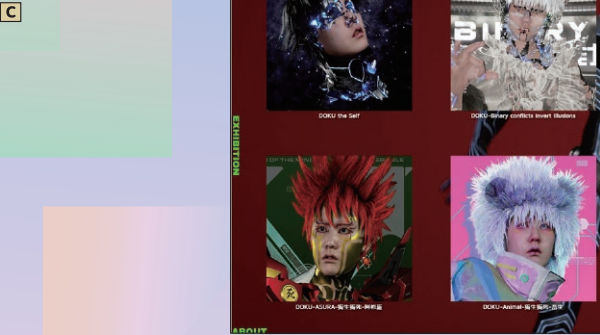
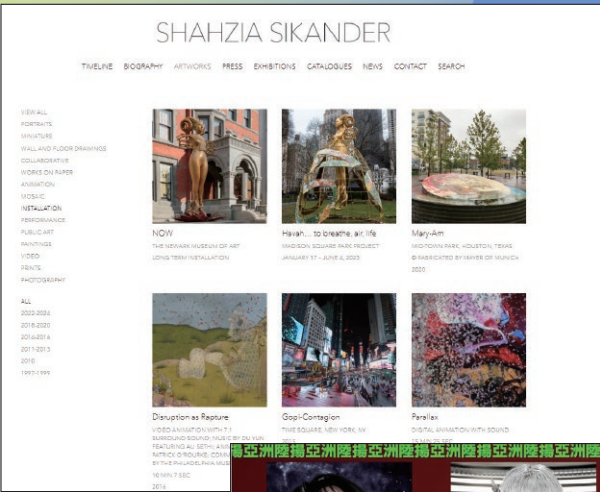
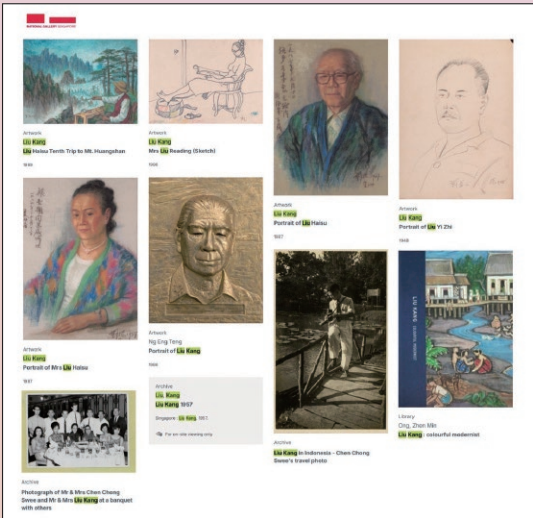
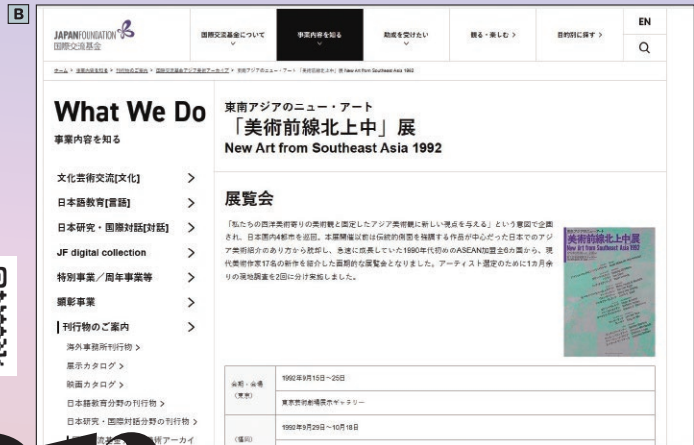
国際交流基金が、1990～2022年の「アセアン文化センター」「アジアセンター」として、現代美術を主としながらも近代美術も含めてコラボレーションなどの様々な企画方法で開催した多数の展覧会の図録論文やシンポジウム発表がPDFで閲覧できます。

Discover
Asian Arts
& Culture
ONLINE

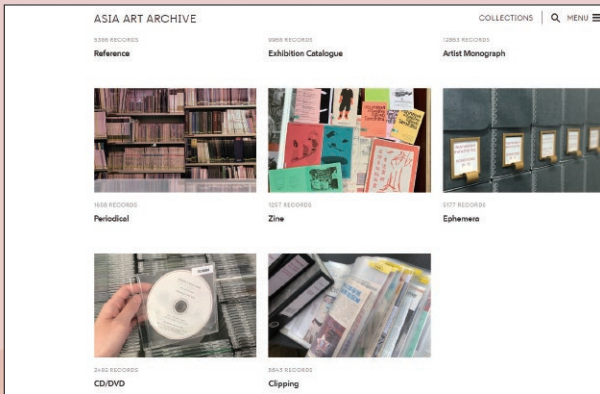
作品も図書・アーカイブ
も同時検索できる

シンガポール国立ギャラリー **F**

Liu Kangでの検索結果一覧



アジア最強アーカイブ
アジア美術アーカイブ (AAA、香港) **G**



細密画
だけじゃない！

シャジア・シカンダー **C**

伝統細密画の革新から始まり、世界
の多様な文化との出会いから
壮大な映像作品やパブリック・
アートまで。



爆発だけじゃない！

ツァイ・グオチヤン(蔡国强) **D**

火薬を爆発させるプロジェ
クトで世界に知られる作家
の最近の発表では、カラフルな爆発でパワーアップ、
それ以外でも大胆で夢の
ある大型作品多数。



動画作品を
大盤振る舞い！

ルー・ヤン(陸揚) **D**

Lu Yang **D**

あじびレジデンスなどで特
異な才能を見せた作家によ
る、ポップな感覚と精神世
界の、想像を絶する融合！



大ベテラン作家でもインスタグラム！

ナリニ・マラニ Nalini Malani **E**

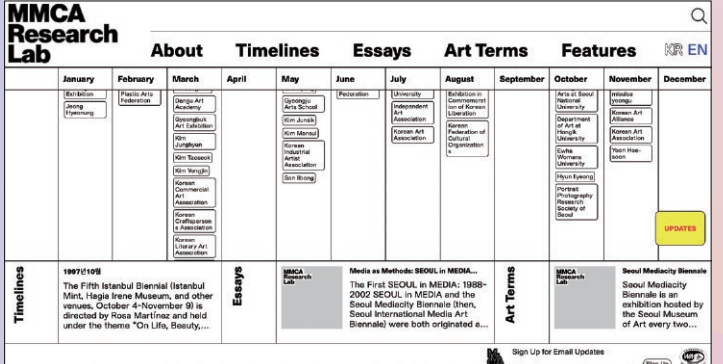
公式サイト(https://www.nalinimalani.com/)では
絵画から壮大なインスタレーションまで見ることができます
が、今はタブレットでアニメーションも制作！新しい手段
を開拓し続ける表現意欲に脱帽。

Image copyright: Nalini Malani

膨大な映像の集積で「東南アジアとは」を問う

ホー・ズーニエン Ho Tzu Nyen

上記の作家紹介サイトとは異なり、シンガポール作家が2012年から続ける
ウェブ上のプロジェクト。文化も言語も民族もあまりに多様な「東南アジア」を
統合するものは何かという問いを、アルファベット26字によるキーワードにもと
づく映像で展開——答えのない問いが果てなく広がっていきます……。



年表から資料、文献に
リンクする驚異のサイト

国立現代美術館(MMCA、韓国)リサーチラボ **H**



専門家向けアーカイブ(英語ほか)

「ベトナム、記憶の風景」を終えて Report 1

11/9まで開催した本展では、ベトナム戦争終結50周年の節目にベトナム近現代美術を紹介しました。企画において大事にしたのは、私たちがいつのまにか思いこんでいる一方的なステレオタイプではなく、ベトナムの美術家が自身や祖国の記憶と向き合い生み出した表現に焦点を当てること。展覧会では作品を通してその思いをお伝えしようと試みました。

一方、関連イベントでは、「人」を通して、今とともに生きる現在進行形としてのベトナムを体感できる機会となることを目指しました。各イベントについて、写真とともに振り返ってご紹介します。



Event Report #1 トーク

ベトナムの新進気鋭のアーティストが語るベトナム美術最前線



10/19に出品作家のタオ・グエン・ファン氏とゴック・ナウ氏をお招きし2部構成でトークを開催。

第1部タオ氏のトークでは、絵画を基礎に映像やインスタレーションなど自在に展開し物語を紡ぐ制作や、大きな歴史からはこぼれ落ちてしまう歴史を見つめる作家としての一貫した姿勢を伺いました。

第2部のゴック氏は、個人の思い出から人々や生物、神話を重ねて様々な記憶を重層的に描き出す出品作品での試み、また作家として「個」を追求し続ける信念を語りました。

新進気鋭の作家である二人のお話からは、新たな視点からベトナムの歴史や記憶を探索する、ベトナム美術最前線が垣間見えました。



タオ・グエン・ファン
(Thao Nguyen Phan) 氏



ゴック・ナウ(Ngoc Nau) 氏

Event Report #2 国際中秋節イベント

福岡のなかのベトナム、そしてアジアと出会う、交わる

現在福岡県で暮らすベトナムの人たちは約2万人。国籍別で最も大きな割合を占めています。そのように身近な隣人であるベトナムの人たちが当館に親しみ、また日越市民の相互理解の機会をつくりたいという思いから、ベトナムをはじめアジア各地に共通する、秋の収穫を祝うお祭りである中秋節を、福岡在住の様々なルーツを持つ人たちと一緒に祝い、お祝いする「国際中秋節INあじび」を福岡国際市民協会と共催で10/4、5に開催しました。ダンスや音楽、ワークショップ、グルメなど盛りだくさんの会期中、会場はさまざまな国の人々が集って大いに盛り上がり、この数十年で変貌し続ける「福岡のなかのアジア」の活気あふれるエネルギーに包まれたひとときでした。



ベトナムの人たちとのギャラリーツアー



フィナーレは全員で獅子舞とパレード!



福岡アジア美術館
Fukuoka Asian Art Museum

<https://faam.city.fukuoka.lg.jp>

あじびニュースvol.98 2025年12月1日発行

企画・編集・発行: 福岡アジア美術館 編集・執筆: 後藤麻与、片桐絵都
デザイン: 吉田朋史[9P] 印刷: 株式会社四ヶ所

〒812-0027 福岡市博多区下川端町3-1リバインセンタービル7・8階 TEL 092-263-1100
7.8F, Riverain Center Bldg., 3-1 Shimokawabata-machi, Hakata-ku, Fukuoka, Japan

ギャラリー観覧時間 9:30-18:00(金曜・土曜は20:00まで) ※ギャラリー入室は閉室30分前まで
開館時間 9:30-19:30(金曜・土曜は20:00まで) あじびホール、アートカフェ等
休館日 毎週水曜日(水曜が休日の場合はその翌平日、ただし8月中は無休)
年末・年始(12.26-1.1)

福岡アジア美術館は2025年12月1日(月)から2026年3月31日(火)まで改修工事のため全面休館します

「英語が読めないから」などとおっしゃらずに、作家名の英語スペルさえわかればウェブ検索で作品の写真や動画を見ることが出来ます。さらに整理された情報を見るには、作家自身が作成しているページがおすすです。あじびの所蔵作品の一部や解説を掲載したページもあるので探してみてください。



爆発だけじゃない！
ツァイ・グオチヤン (蔡国強)
Cai Guoqiang

火薬を爆発させるプロジェクトで世界に知られる作家の最近の発表では、カラフルな爆発でパワーアップ、それ以外でも大胆で夢のある大型作品多数。

細密画
だけじゃない！

シャジア・シカンダー
Shahzia Sikander

伝統細密画の革新から始まり、世界の多様な文化との出会いから壮大な映像作品やパブリック・アートまで。



動画作品を
大盤振る舞い！

ルー・ヤン (陸揚)
Lu Yang

あじびレジデンスなどで特異な才能を見せた作家による、ポップな感覚と精神世界の、想像を絶する融合！



大ベテラン作家でもインスタグラム！

ナリニ・マラニ Nalini Malani

公式サイト(https://www.nalinimalani.com/)では絵画から壮大なインスタレーションまで見ることができますが、今はタブレットでアニメーションも制作！新しい手段を開拓し続ける表現意欲に脱帽。



膨大な映像の集積で「東南アジアとは」を問う

ホー・ズニエン Ho Tzu Nyen

上記の作家紹介サイトとは異なり、シンガポール作家が2012年から続けるウェブ上のプロジェクト。文化も言語も民族もあまりに多様な「東南アジア」を統合するものは何かという問いを、アルバム26字によるキーワードにもとづく映像で展開——答えのない問いが果てなく広がっていきます……。



MMCA Research Lab	About	Timelines	Essays	Art Terms	Features
January	February	March	April	May	June
July	August	September	October	November	December
Timeline	Essays	Art Terms	Features	Features	Features

年表から資料、文献に
リンクする驚異のサイト

国立現代美術館 (MMCA、韓国) リサーチラボ



あじび休館中でも インターネットで 気軽にアジア・アートを探訪！

推薦者：黒田雷児 (学術交流専門員)

あじびは12月から
来年3月末まで改修工事で休館します。
その間あじびの展覧会を見ることができず
さびしいと思われる方に、オンラインで
アジア美術を学ぶ・楽しむ方法を
伝授いたしましょう！



必見は世界唯一の
アジア近現代美術年表！
アジア美術資料室



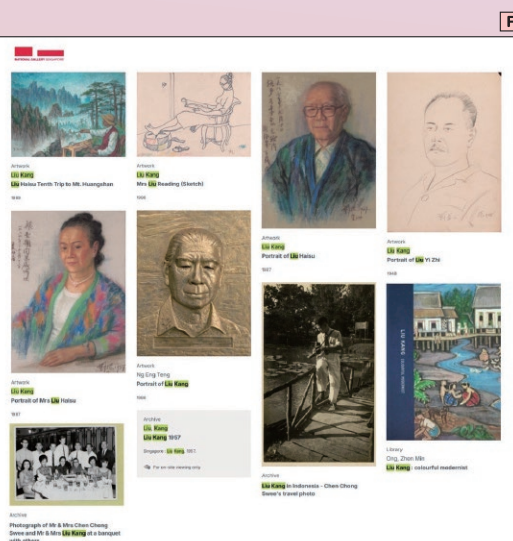
アジア美術の基本知識を学ぶ教科書は日本にはありません。そこで、アジア美術特有の用語や、今日の国際化するまでの歴史的展開、異なる地域間の運動・交流・違いなどを、いつでも調べられるように、あじびではこのウェブサイトでも2023年に開設しました。現時点では、年代別総覧も検索もできる「年表」約1400件と日本語メインの「文献」約1600件のデータベース、「用語集」45件、詳細な解説を含む「重要作家」22件を掲載、今年度は地域別の概要を追加予定で、各項目の内容も徐々に充実させています。

多数の重要文献が日本語で読める！

国際交流基金アジア美術アーカイブ



国際交流基金が、1990～2022年の「アセアン文化センター」「アジアセンター」として、現代美術を主としながらも近代美術も含めてコラボレーションなどの様々な企画方法で開催した多数の展覧会の図録論文やシンポジウム発表がPDFで閲覧できます。



作品も図書・アーカイブ
も同時検索できる
シンガポール国立ギャラリー

Liú Kongでの検索結果一覧



「ベトナム、記憶の風景」を終えて

Report

11/9まで開催した本展では、ベトナム戦争終結50周年の節目にベトナム近現代美術をご紹介します。企画において大事にしたのは、私たちがいつのまにか思いこんでいる「方的なステレオタイプではなく、ベトナムの美術家が自身や祖国の記憶と向き合い生み出した表現に焦点を当てること」展覧会では作品を通してその思いをお伝えしようと思ってみました。一方、関連イベントとしては「人を通して、今とともに生きる現在進行形としてのベトナムを体感できる機会となること」を目指しました。各イベントについて写真とともに振り返って紹介します。

Event Report #1 トーク ベトナムの新進気鋭のアーティストが語るベトナム美術最前線



10/19に出品作家のタオ・グエン・ファン氏とゴック・ナウ氏をお招きし2部構成でトークを開催。第1部タオ氏のトークでは、絵画を基礎に映像やインスタレーションなど自在に展開し物語を紡ぐ制作や、大きな歴史からはこぼれ落ちてしまう歴史を見つめる作家としての一貫した姿勢を伺いました。第2部のゴック氏は、個人の思い出から人々や生物、神話を重ねて様々な記憶を重層的に描き出す作品作品での試み、また作家として「個」を追求し続ける信念を語りました。新進気鋭の作家である二人のお話からは、新たな視点からベトナムの歴史や記憶を探索する、ベトナム美術最前線が垣間見えました。



タオ・グエン・ファン (Thao Nguyen Phan) 氏



ゴック・ナウ (Ngoc Nau) 氏

Event Report #2 国際中秋節イベント 福岡のなかのベトナム、そしてアジアと出会う、交わる

現在福岡県で暮らすベトナムの人たちは約2万人。国籍別で最も大きな割合を占めています。そのように身近な隣人であるベトナムの人たちが当館に親しみ、また日越市民の相互理解の機会をつくりたいという思いから、ベトナムをはじめアジア各地に共通する、秋の収穫を祝うお祭りである中秋節を、福岡在住の様々なルーツを持つ人たちと一緒に祝いする「国際中秋節INあじび」を福岡国際市民協会と共催で10/4、5に開催しました。ダンスや音楽、ワークショップ、グルメなど盛りだくさんの会期中、会場はさまざまな国の人々が集って大いに盛り上がり、この数十年で変貌し続ける「福岡のなかのアジア」の活気あふれるエネルギーに包まれたひとときでした。



ベトナムの人たちとのギャラリーツアー



フィナーレは全員で獅子舞とパレード！

福岡アジア美術館
Fukuoka Asian Art Museum

https://faam.city.fukuoka.lg.jp
あじびニュースvol.98 2025年12月1日発行
企画・編集・発行：福岡アジア美術館 編集・執筆：後藤麻与、片桐絵都
デザイン：吉田朋史 [9P] 印刷：株式会社ヤクサ

〒812-0027 福岡市博多区下川端町3-1リバーラインセンタービル7・8階 TEL 092-263-1100
7・8F, Riverain Center Bldg., 3-1 Shimokawabata-machi, Hakata-ku, Fukuoka, Japan
ギャラリー観覧時間 9:30-18:00 (金曜・土曜は20:00まで) ※ギャラリー入室は開室30分前まで
開館時間 9:30-19:30 (金曜・土曜は20:00まで) あじびホール、アートカフェ等
休館日 毎週水曜日 (水曜が休日の場合はその翌平日、ただし8月中は無休)
年末・年始 (12.26 - 1.1)
福岡アジア美術館は2025年12月1日(月)から2026年3月31日(火)まで改修工事のため全面休館します

成果展

カ月に及んだレジデンス活動
成果発表。展示作品を前にし
のギャラリートークやパフォー
ンスを開催するなど、完成した
品の世界を堪能します。